

研究サークル成果等報告書

1. 研究サークル名
防災とソーシャル・イノベーション研究会
2. 研究サークル責任者名
小林和子
3. 研究サークル活動期間
(2025)年(4)月～(2026)年(3)月
4. 研究会の趣旨と当年度の研究計画の概要

近年、地域性が強い自然災害が頻発する環境下において、防災、減災の活動をどのように推進することが必要であるのかが課題となっている。自然災害の地域性を鑑みた公共政策のモデルを探求し、実践することが必要である。

2025 年度に日本ソーシャル・イノベーション学科の分科会で企画発表した内容：

【企画趣旨】

昨今、大雨による土砂災害、地震に対する防災対策が叫ばれているが、防災対策は各地域によって異なるのではないだろうか。過去の災害体験によって個人が思い描く災害対策の温度差もあり、必ずしもある地域の事例が全ての防災に役立つわけではない。防災対策は地域ごとに違いがあるのではないかという観点から、全国一律の防災に関する認識を改めて見直し、地形、街並みを立体的に俯瞰するやわらか凹凸マップを使ってインフラを再認識することで、地域に即した防災対策～防災教育につなげたいと考える。今回は、過去において大雨による土砂災害は多く発生していて経験はあるが地震の経験はない大津市在住のメンバーと地震や豪雨を幾度も経験している加賀市在住のパネリストの話を比較し参加者の方々とディスカッションを実施し新たな視点から防災教育を生み出したい。

【発表者】

石川県、滋賀県在住の2名のパネリストに各地域の歴史、語り継ぎ、住環境、災害経験、地域防災、防災意識についての発表

■ 河西 紀明 氏（石川県加賀）/ 一般社団法人 民泊観光協会 理事（石川支部）

黒崎 BASE(民泊)運営者/やどかりプロジェクト主催

■ 他谷 尚 氏（滋賀県湖西） / 株式会社オシンテック

【オープンセッション】

各発表地域の地形、街並みを立体的に俯瞰するやわらかな凹凸マップを使ってインフラを再認識しつつ新たな視点から防災教育についてのディスカッション。

7. 研究成果の概要（研究計画に照らして、何をどこまで実現できたか？）

今回の発表から石川県の河西氏は家庭を最小単位とした防災行動計画（FCP：Family Continuity Plan）の考え方をもとに、日常の遊びの中から防災・減災意識を育むことを目的として開発する教育ツール「遊んで学べる防災かるた」を発案しテスト版を作成、年内（2026 年度中）に石川県内で実証実験を実施する予定。

「遊んで学べる防災かるた」仕様書：

https://drive.google.com/file/d/1ZsxnNTQYYUbQ_jcidY4O2RTpopE3aQ9/view?usp=sharing

5. 次年度継続の意向（※どちらかに○をつけてください。）

あり（○） なし（ ）

6. 研究費の収支報告（※必要に応じて表の行を増やしてください。）

日付	摘要	収入	支出	備考
2025/9/18	凹凸ソフトマップ能登版 3 枚	50,000 円	50,000 円	
	合計			